

**今日のトピック**

**2016年のブラジル経済の見通し**

**2年連続マイナス成長へ、物価安定を優先**

**ポイント1 景気後退が続く見込み**

**物価安定が景気持ち直しのカギ**

- 実質GDP成長率は、2015年に続き2016年もマイナスが見込まれます。物価高、ブラジル中央銀行（以下、中銀）の利上げ、財政緊縮などによる内需の不振、中国など新興国経済の減速による輸出の不振が今後も景気低迷の要因となると見られます。
- 中銀の金融引き締めにより物価が安定し、消費者心理の改善などを通じて景気が持ち直すには時間がかかりそうです。

**ポイント2 物価高継続で利上げ再開**

**景気低迷下でも金融引き締め**

- 消費者物価指数の上昇率は、2016年末でも中銀の物価目標（年+4.5%、2016年末まで±2.0%、2017年以降±1.5%）の上限を超えると市場では見られています。財政再建に伴う公共料金の引き上げやこれまでのレアル安の影響などが、今後も物価の高止まり要因となる見込みです。
- 中銀は物価抑制を最優先としており、2016年は複数回の利上げが見込まれています。

**今後の展開**

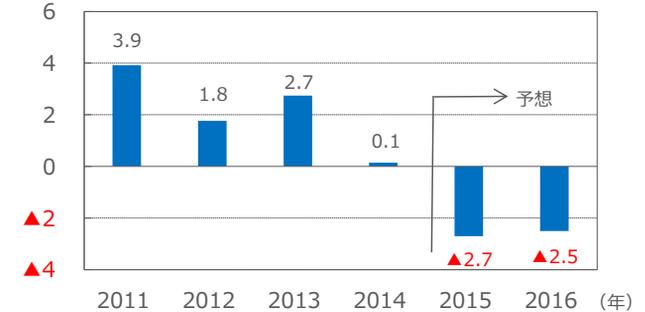
**当面は利上げによる通貨と物価の安定を待つ局面**

- 景気低迷による税収減などから財政収支が悪化するなか、緊縮財政を主導してきた財務相が辞任し、財政再建がさらに不透明になっています。大手で唯一ブラジル国債の投資適格級を維持しているムーディーズが見通し通りに格下げを実施すると、

投資適格級の格付けを失うこととなります。

- 景気後退、物価高、財政不安などに加えて、政治的な不透明要因もあり、ブラジルレアルは不安定な動きが続くと見られます。当面は利上げによる通貨と物価の安定を待つ局面といえそうです。

【実質GDP成長率】



(注) 2015年、2016年は三井住友アセットマネジメントの予想。  
(出所) 国際通貨基金 (IMF) のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【政策金利、消費者物価指数、物価目標】



(注) 政策金利は2012年12月1日～2015年12月18日。消費者物価指数は2012年12月～2015年11月。物価の市場予想は、中銀が12月14日に発表した市場予想。中銀の物価目標は年+4.5%。レンジは、2016年末まで±2.0%、2017年以降±1.5%。

(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ここも  
チェック!**

2015年12月14日 財政再建目指す「2016年予算案」(ブラジル)  
2015年11月26日 ブラジルの金融政策 (2015年11月)

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。